

学位論文題名 (注: 学位論文題名が英語の場合は和訳をつけること)
中小規模の事業場におけるアルコール使用障害の実態とその重症度と関連のある因子の検討

学位の種類: 修士 (看護学)

首都大学東京大学院

人間健康科学研究科 博士前期課程 人間健康科学専攻 看護科学域

学修番号 16894605

氏名: 塚本正太郎

(指導教員名: 廣川聖子)

注: 1 ページあたり 1,000 字程度 (英語の場合 300 ワード程度) で、本様式 1~2 ページ (A4 版) 程度とする。

要旨

目的: 我が国にはアルコールの問題のある使用様式であるアルコール使用障害 (Alcohol Use Disorder: AUD) の患者が 117 万人存在すると推計されている。その中で治療を受けている者はわずかに約 5 万人であり、現在も AUD による問題を抱えながらも支援を受けることができていない者が多いことが課題となっている。しかし全ての飲酒者に対してスクリーニングを行うことは現実的ではない。そこで本研究では、AUD のリスクが高い一群とされている従業員 50 人未満の中小規模の事業場の労働者に注目し、その実態を把握し、重症度と関連のある因子を明らかにすることを目的として調査を行った。

方法: 本研究は X 区内の中小規模の事業場 33 社を対象とした横断研究調査である。AUD の重症度を把握するためアルコール使用障害特定テスト (Alcohol Use Disorder Identification Test: AUDIT) 並びにその簡易版である AUDIT-C (Consumption) を用い、また重症化の要因に関する調査項目として人口統計学的変数、労働環境変数、自己の飲酒に対する問題意識や人間関係、および飲酒の結果に対する受け止め方等を測定した。重症化の要因について順序ロジスティックモデルを用いて解析を行った。

結果: 407 名に調査票を配布し、222 通の有効回答を得た。AUDIT 得点は平均 6.01 (±SD=5.98) であった。対象者の 9% がアルコール依存症の疑いを有しており、対象者の 58.1% が危険な飲酒群であった。AUD の重症度が高くなることに関連する因子として自身の飲酒に問題意識を持っていることと身体疾患を有していることが示された。また、アルコールが人間関係および気分および影響に関して問題意識を持っているものと、職場内の人間関係が悪いものほど AUD の重症度が低い結果が示された。

結論: 中小規模の事業場における AUD は特にその飲酒量によって特徴づけられている。今後はアルコールに頼らない職場内のコミュニケーションの促進とともに AUD に関する正確な情報の普及が必要である。それに伴い、AUD が深刻化した際の相談先の周知も徹底する必要がある。また、AUD が深刻化しているものは自己の飲酒に対して問題意識をすでに持っているため、安易に指摘することで否認を招き問題が深刻化しないよう、エビデンスに基づくケアを実践する必要があると考えられた。